



大野 則男 議員

愛西市の農業をどう守るか

質問

愛西市の基幹産業の農業を市としてどう守るか。わが市の農業地域は、4地区での区割りになっている。その農業を、各地域でかなり方向性が違つと思つが、市として4地区の農業をどう守るのか。農業団体との関係について、改めるべき点は改め、補強すべきところは補強すべきと考えるが。

経済建設部長

愛西市においても、国の政策にのっとり農地の保全をし

ていかなければならない。

永和学区においては、全体面積が約360haのうち約6割の220haが農地である。今後も維持管理が必要であると考えている。関係機関や担い手農家との協議を続けている。

農業団体の関係では、27団体240万円の補助金については、交付要綱により交付している。見直す考えはない。

経済建設部長次長兼経済課長

担い手不足、高齢化など、苦しい状況にある中で食料自給率も低下している。農業は

基幹産業であり、多面的機能を持っている。農業生産以外にも、洪水を防ぐ、地下に雨水を涵養す

る、気温の上昇を和らげる、生物のすみかを提供する、心身をリフレッシュさせる、学習の場となるなどの機能をに

なっている。こうした機能を持つ農業・農地を今後も保全していく必要がある。

学校教育での情報開示を

質問

学校教育で、特に中学校に ついて、我々の子供たちが県下でのレベルの学校に通っているか、情報開示を。また、子供たちばかりでなく、教師も教育について、ワークショップという手法をとりいれて、勉強してもらおう考えはないか。

教育長

現時点では、中学校から公立高校、私立高校へどれぐらい行くのかの調査はしているが、高校ごとの調査はやっていない。

現在、コミュニケーションがうまくとれずに、親子、子供同士、教師と親と子、その

辺のコミュニケーション不足を解消していくために、あるいは9年間を見通した教育の推進、中一ギャップによる不登校の減少などをねらい、小・中連携、小・小連携の推進の中で、ワークショップが生かされればと思う。

その他の質問

・観光船と観光協会について

